

マグロ類における緊急赤潮情報2

令和4年6月1日
大分県農林水産研究指導センター水産研究部

別府湾（大在～神崎）で有害プランクトン（カレニア・ミキモトイ、ヘテロシグマ・アカシオ）が注意密度を超えています。
マグロ類の管理に十分注意願います。

発生場所 大在～臼杵湾
発生期間 6月1日～
プランクトン カレニア・ミキモトイ
大在 36 cells/ml
ヘテロシグマ・アカシオ
神崎 1,175 cells/ml



※詳細は別紙参照

赤潮発生場所での対応

- 投餌は控える。
- 赤潮海域へ魚介類を入れない。
- 赤潮海域から魚介類を避難する。

(カレニア・ミキモトイ赤潮の注意点)

- ・ マグロの場合 警戒密度：200 cells/ml 注意密度：20 cells/ml
- ・ カレニア・ミキモトイは魚介類の斃死を引き起こす非常に有害な赤潮プランクトンです。
- ・ 特に、アワビ、サザエ等では海面が着色する前に斃死する可能性があります。
- ・ 表層が着色しなくても、中層に赤潮を形成していることがあります。
- ・ 午前中、海色が良くても午後から色が悪くなる場合があります。
- ・ パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖、畜養中の魚介類に被害を及ぼすことがあります。
- ・ 低密度でも被害を引き起こす可能性があります。

(ヘテロシグマ・アカシオ赤潮の注意点)

- ・ マグロの場合 警戒密度：5,000 cells/ml 注意密度：500 cells/ml
- ・ ヘテロシグマ・アカシオは魚介類の斃死を引き起こす非常に有害な赤潮プランクトンです。特にシマアジに有害です。
- ・ 鉛直運動をするため午前中に海色がよくても、午後から着色し被害を発生させることがあります。
- ・ パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖、畜養中の魚介類に被害を及ぼすことがあります。
 - ・ 低密度でも被害を引き起こす可能性があります。